

福島町定住促進・少子化対策プロジェクト福島町まちづくり町民フォーラム(第1回)

日 時	平成23年9月12日(月)午後6時から			
場 所	福祉センター 音楽室			
出席者	フォーラム参加者 45名			
事務局	企画 G 参事	鳴海 清春	企画 G 総括主査	住吉 英之
	企画 G 主事	中塚 雅史	ぎょうせい創研	廣地主任研究員

○事務局

今日は何かとお忙しい所、まちづくり町民フォーラムの第1回目の会議にご参加を頂きまして、ありがとうございます。私、役場の方で企画を担当しております、鳴海と申します。

今日は、最初の進行の方をさせていただきますのでよろしくご協力をお願いしたいと思います。

最初に、若干プロジェクトの経緯をご説明させていただきますが、当プロジェクトは北海道の地域再生加速事業に応募し、採択された事業で、町のプロジェクト名は皆さんの方にも通知をしてございますけれども、「定住促進及び少子化対策検討プロジェクト」となっております。

ただ、道の方への事業とした名称は「若者が自ら考え実践する定住、少子化対策プロジェクト」という事で、今日は比較的、若い方々に集まっていたいてございます。それは何故かと言うのは、皆さんも毎月広報の人口欄でお気づきの事と思います。誕生欄を見ていただくと分かると思うのですが、毎年、生まれる人が極端に少なくなっております。そういった事で、町は加速的に人口が減っている傾向にご

ざいます。そのようなことで、何とか人口減少に歯止めをかけられないかと、次の世代を担う若い人達に真剣に町の将来を考えていただきたいという事で、このようなまちづくり町民フォーラムを企画させていただきました。どうか、皆様の持っている感性で町に対して、どしどしご提言をいただければと感じておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。それでは早速ですけども、第一回目の会議を、お手元の資料に基づきまして、進めさせていただきます。それで、本来であれば町長が来てご挨拶をする所だったのですが、町長は今日、函館の方の病院の方へ行っておりまして、若干遅くなっているようでございますので、もし、間に合えば町長の方から、ご挨拶を頂きたいというふうに思っております。

それでは、会議資料に基づき進めさせていただきます。

次に、2番目の福島町定住促進少子化対策プロジェクトについて企画グループの中塚より、説明させますのでよろしくお願い致します。

○事務局

本日はお忙しいところ、福島町まちづくり町民フォーラムに参加頂きありがとうございます。私は、総務課企画グループの中塚と言います。私の方からは、当プロジェクトの概要を簡単に説明させていただきます。お手元にあります資料1の内容について説明させていただきます。本来は、この資料の内容を1ページずつ皆さんにご説明することが親切だとは思いますが、会議の時間も限られておりますし、また、重要なところがどこなのか、分かりづらくなると思いますので、この資料をもとに要点だけ説明させていただきます。

まず、福島町の人口の状況を話させていただきます。資料については1ページまた2ページの方をご覧頂ければと思います。2ページの方の図の表1を見ていただければ分かり易いと思いますが、町で人口が最も多かった時期は、昭和50年頃で、人口の累計は12,000人を超えております。

その後の経過を見ていただくと5年毎に700~800人程度、昭和60年から平成2年では2,000人も減っております。資料には掲載しておりませんが、近々の状況も調べますと、平成23年8月末の総人口は5,062人と人口のピーク時の半分以下となっております。減少の理由は何なのか?ということで調べたところ、昭和51年頃は、子どもの産まれた人数は211人に対して、死亡者数68名、転入して来る人の数は723人で、転

出する方は850人で差引きして16人増加しておりましたが、トンネル工事が終了してから、平成の前半まで毎年200人から300人が転出等で人口が少なくなっています。また、出生の関係についても、生まれた人数の方が死亡する人数より多かったのですが、平成からは逆転しており、平成元年では、生まれた人数が67人死亡した人数が89人という事で、減少して現在まで推移しているということです。

参考として、前年の平成22年では出生している子どもの数が13人で、死亡している数が92人、転入者は127人で、転出者は215人で差引きして167人が平成21年から比べて減少しています。ここ数年は100人~200人程度で減少している傾向になっています。

今、説明したとおり、現状の状態を推移していきますと、数十年後には、福島町は町としての機能ができなくなるという事で、危機感を抱いてもらいたいということで、詳しく説明をさせていただきました。

それで、この状況をどうにかしないといけないという事で、資料の14ページ、15ページを見ていただければと思います。ここに書いている通り、今回の皆さんに集まってもらった、定住促進会議プロジェクトというものを作りたいということで、目標として福島町の若者が生活基盤を確立し、夢ある人生設計が実現できる町。また、町外の受け入れを中心にして、人口等

と少子化解消を実現する町ということで、視点は以下に書いている4つの通りに考えています。A町づくり基本条例の実践という事で、今回皆さん方に参加してもらっている、このフォーラムの歩を進め、という事で実践して最終的には提言書ということで、頂きたいという格好になっています。

また、問題点の抽出項目ということで、その下にあります住民総参加福島応援隊の参加ということで、中高生、また皆さんにも協力してもらい、アンケートを実施したいと思っています。また、その中には町外に出ている、地元が福島の方という事で、札幌福島会、北海道福島会の方にアンケートの方を協力したいと思っております。

隣の5ページの方を見ていただければ、未来の福島町を担う若者の意見反映という事で、8月25日に終了したんですが、高校生未来会議という事で、高校3年生ですね、27名に参加していただいて、高校生未来会議という事で、課題をこういう町にしたいという事で、意見を頂いております。

このフォーラムを開催するに当たり、今回は年齢層を指定して各団体に依頼させていただきました。年齢指定した理由なんですけど、日常生活を行っていて、今まさに困っていること、(例えば、子供の関係では子育て支援、教育、医療)この点では、その世代の方ばかりなので意見を出しやすいと思えました。

また、町外から20代~40代の働き盛りの若者を呼び込むと考えた場

合には同年代なので、考え方の近いものがあると思えました。また、何より今後の福島町を担っていく世代の方々に、町政に参加していただいて、協働したまちづくりを一緒に進めて行きたいというのが一番の思いであります。

今回の町民フォーラムの開催概要については、当町から委託しております株式会社ぎょうせいの方で、説明をさせていただきますので、詳細な内容は私からは控えさせていただきますが、今日を含めて年内に4回町民フォーラムの開催を予定しております。

町としても、皆さんが意見を出しやすいフォーラムになるよう努めますので、皆さんも積極的な発言へのご協力を頂ければありがたく思います。

なお、皆さんから出された意見については、最終的に提言書という事で、まとめさせていただきます。資料の18ページを見て頂ければ分かると思います。真ん中あたり、住民参加という事で、町民フォーラム1、2、3としかついてないんですけども、うちの方のミスで、4回になるかもしれませんが、3回になるかもしれません。

ここで、定住少子化対策委員との提言という事で、皆様に出してもらった意見の方を政策の方に反映させて行きたいと思っております。

皆さんからもらった意見について平成24年度から実施できる政策は実施し、検討が必要なものはまちづくり推進会議で検討の方をしてもらって25年度以降に実施できる政策は

実施していきたいと思っております。最後になりますが、「今日の参加している皆さんを含め町民の方々が住んでいて良かった、これからも住み続けたい、また、町外の人達からは住んでみたい」と思われる町に出来るようご協力をお願い致します。

私からの説明は以上となりますが、何かあれば、意見を承ります。

無いようなので、この後の町民フォーラムの開催概要などについて、委託しております、株式会社ぎょうせいの廣地主任研究員の方から、説明をさせていただきます。それでは、廣地様お願いします。

○ぎょうせい

皆さんこんばんは、ぎょうせい総研の廣地と申します。今、ご案内頂きましたとおり、この町の定住促進、少子化対策について、皆さん方のご意見を伺って、町の政策に活かしていきたいという事なので、私はそのお手伝いをさせていただく事になりました。

今しがた、中塚さんの方からもお話がありましたように、8月の25日ですね、高校生の方々に、課題研究でやっていただきました。また、これも今日あとで、ご説明を申し上げますが、皆さん方にも高校生が何を考えてくれたか、というのを見せたいと思っておりますが、今日は、何はともあれ町の職員の方約30名弱でしょうか、それから、町民の方々が40名弱という皆さん方にお集まりいただいて、この町の近

未来について、私も微力ではございますが、皆さん方のお手伝いをして、是非、町に良い提案が出来るように頑張りたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

お手元に資料2というのが配布してあるかと思っております。このまちづくりフォーラム開催概要という事で、まず重要なことは真ん中にあります目的の一つでもあります。共生型社会の創造、皆で一緒にこの町を造っていきましょう、ということで、これは先ほどのご説明ですと、町民が減少している急激に減ってきている、まして、少子化といえますか、出生率がどんどん減ってきている。これは、月によって違いがあるかとは思いますが、先ほど実は私、町に来まして、広報、皆さん方もお読みになっているかと思っておりますが、この広報を読んで、やっぱりこういう所にもはっきり出て来ているなと、思ったんです。実は、最終ページに人口と世帯と言うのがありますが、皆さんこれお読みになればお分かりになるかな。何かというと、およろこび、かなしみ、という誕生したこと、お亡くなりになった方、お悔やみのあれがあるんですが、この7月から8月にかけて、お誕生日おめでとうというのが、お一人。お悔やみ申し上げますということで、亡くなった方が9人いらっしゃるんですね。それから、先ほど、話があったように人口がまもなく、とうとう5,000人を割ってしまう、一番多かった時は12,000人くらいいた。ということでいくと

今まさしく日本全体が大変な時期でありまして、人口減少に向かっているわけです。これから人口を増やして行くというのはなかなか大変なことであります。少なくとも、人口を維持していくと言う事は非常に重要なこととさせていただきます。

そのためには、共創型社会の創造ということですね。まず、若い皆さん方、ちょうど、働きざかりの皆さん方にご理解いただくことが重要なんですが、これは難しい言葉で言いますと、新しい公共と言われるんですね。今、地産地消とかですね、地域資源の活用による内部とか、色々な事言われていますが、ここで重要な事は、この共創型社会と言うのは、皆で一緒に自分たちの住んでいる国、町を盛り立てて行こう、という事でこれが言葉を変えると新しい公共と言われるんですね。今まで、公共ってどちらかというところ、それは行政がやるもので、住民は公共の公共財を使ってどう生活していくかということだったんですが、これからは、一緒に公共財を造っていかなくてはならない。そのために、私は共創型社会ということで考えるのであれば、まず重要なことは、ともに学び、ともに理解し、ともに行動し、ともに感動するというこれが多分まちづくりの原点だろうと思っております。ですから、今回のこの開催の概要の中に強く訴えたいんです、皆さん方に、この思いを共有していただきたい。自分たちの住んでいる町をより住みやすくして、外の人にも喜んでいただく、

あるいは自分たちの子ども、孫、世代に安心して住んでいただく町を造るためには、この、共に学び、共に理解し、共に行動し、共に感動するということが重要なことだろうと。それに向けて町民フォーラムを開催しているんだというご理解をいただければと。結果として、皆が力を合わせれば、福島町が豊かなコミュニティとして、人々から賞賛される。あるいは、共感を持たれる。こういう町になって行くのではないかなと思っております。

まず重要なことは、今回のこのフォーラムの目的は、定住促進と少子化解消を目指すんだと、いう事でやろうと思えます。一番上に書いてありますが、特に若者の定住促進がその柱です。

先ほど申し上げましたけれど、出生してくる子が一人で、お亡くなりになる方が高齢者の方が9人ですと、これは、どんどん人口が減るわけです。いわゆる若者と言われる20代30代、ある日には40代、この人達がきちんと定住できる町を造っていくというのが、重要なんだと。

そのために、今実は、全国の市町村が競走しています。私たちの住んでいる所も最近人口減少が始まっています。特に、私の職場のある東京都の千代田区なんですけれども、中心地ですが、もう過疎地です。何故、過疎地というかというところ、働きに来る人は幸いな事に居るんですが、夜になると、もう住民がいらないんですよ。皆、外から働きに来ているので、夜になると住民が居ない。住民が居ない町はどうなる

かと言うと、隣近所が居ないということですから、えらいことなんですね。

これは、何かあった時にもなんともならない。そんなことがあります。

そのために、全国どこに行っても今定住促進これが一つのテーマです。その時にどこに行っても同じことですが、やはり少子化対策、それから若者にどう定住してもらうか。その時に、私たちが言う、地方の方から、この町もそうですが、重要なことは地域資源を集中活用した産業振興、独自産業化なんて難しいことを書いてありますが、実はこの独自産業化と言うのは一般論としては、農産水産という一次産業をどう加工して、どう流通に乗せるかという事で、一次産業、二次産業、三次産業を足して6だから、6次産業と言っているのですが、今重要な事はこの6次産業化なんですけど、一次産業、二次産業、三次産業を足して6という事ではないんですね、何かと言うと、自分たちの町でその資源として活用できるものを最終までその町で活用するという事です。例えば、この町でいくと、漁業があると、その漁業があったらまず自分たちの中で、そのものが消費されるというそこまで、これは管轄外の話だと言われますが、基本的な事を言うと、自分達の中で全て、これから来た一次から三次まで評価できるという体制を作る事だということ考えています。そうすると、今高校生でもフォーラムをやったときに、どんな意見が出てきたかと言うと、働く場が無い、働く場を作って欲

しいと、こうなんですね。でも働く場を作って欲しいと言うときに、町民が自分たちで働く場を作らなかったら、なかなかできないんですね、どこに行ってもそうですね、自分たちで働く場を作らない限りは、働く場っていうのはできないんです。皆、競走しているんです。今、市町村の数は1,880くらいですが、この1,880が日本全国で競走しているわけです。で、そのためには独自産業化というのは、まず自分達の食べるもの、それから、働くこと、寝ること、学ぶこと、遊ぶこと、憩うこと、これらの環境を自分たちで作ら出すという努力をまずしなきゃいけない。ということです。

そういうものが出来てくると、当然のことながら、そこに住むことの喜び、自分達の目に届く所で、物事が回転しているということが見えてくると、その喜びを感じます。外から見たら楽しそうだなと、言葉でいうと、これは、日常性の中の非日常性という私たちは、言い方をします。

非日常性とは何かと言うと、これはよくリゾートなんて言う言葉で、自分達の町にないものに、あの町いいなと思う事が非日常性なんですよ、一般的に。それはなにかと言うと、そこに住んでいる町民が楽しんでいる姿が無ければ、絶対に外から人は来ないということなんですね。残念なことに、日本はどこの町に行っても、非常にいいものがどこの町に行ってもあるんです。どこの町に行ってもあるんだけど、この情報化っていう中では、たしかに、

大都市に行けば、札幌やあるいは東京に行けば金ぴかでキラキラやっていると。でも、そこには無いものはいっぱいあるんですね。で、ここに無いものは何かじゃなくて、あるものは何かということをもまず考えて行くことが重要なんだと、で、今とりあえず足りないものを皆で探し出して、こうしたら足りるかもしれない、こうすれば自分達のこの福島町、あるいは広域圏の中でこういう面白いものが出来るかもしれない、ということを考えていただくことが、非常に重要なことだと言うふうに思っています。

そのためには、皆さん方自転車のタイヤ溝を思い浮かべてください。ここに書いてある地域資源の連携、ハブとスポークと書いてありますが、真ん中にハブがありますよね。

自転車の真ん中には、このハブといわれる真ん中、ここで転がっていますね。そこにスポークが付いています。ここの先にタイヤが付いて転がる事によって、動いていくわけですよ。この一本一本が、どれかが欠けると自転車がガタガタして動かない。

今、皆さん方に考えて頂きたいのは、自分達の選択の場、これは家庭として考えていいでしょう、あれば、職場と考えてもいいでしょう、この自分達の生活の場にこの町の中にある資源が、それぞれが必ずここの中心部に向かっていているわけですから、その向かっているのに動力が、ここにあるもの例えば町の公共施設、プールだとします。このプールがある事によって自分達

のある部分に憩いの場が一つ出来る。でも、これとこれがばらばらでは、機能しないんですね。ここに居る人たちが全部繋がっているものとして、その時その時に、自分の役割で必要なものですから、必要なものを今、足りないものがあればこの線をどうやって増やすかということを考える。自分達の住んでいる地域、この中にあるものをどう繋げるかっていう発想をまず、もって頂きたい。今回も基本的な目的を皆さんに考えて頂きたいと、で、足りない場合は例えば、これが一本途中で磨耗しちゃってなくなっちゃったと、例えば極端な例でいうと、廃校になった学校をどう利用するか、当然、ここに学校が合ったとすればこの学校を新しい形で、こうなる。このときに、この全体を見た時にどういうスポークを作っていったらいいかを、皆で考える事が重要なんだ。ということをお願いしたい。

それからもう一つその下、町民フォーラムのテーマという仮題でも入っています。ここに住みたい町、選ばれる町福島、アイランド福島（仮）と書いてある。これは、何でここにアイランド福島（仮）と書いてあるかということですね、この町に地域福祉計画というのがあります。

町の福祉を考える全体の大きな一つの計画書です。その中にですね、一人一人の幸せを大切にする皆の福島、幸せアイランド福島というのがテーマになっています。それを見た時、いいテーマだね、というのがあったので、

とりあえずこれはここに置かせていただきました。これは変えていいんですよ、今は仮テーマなので。これは、強く申し上げたいのは、これらの定住促進、少子化対策は、繰り返しになりますが、住民による住民のための住民のブランド作りなんです、町のブランドを作ることは大事なんですけれども、住民のブランドを作ることが前提になります。この時に先ほど新しい構想なんていうことを申し上げました。

自助、共助、公助という言葉は聞いたことがありますか？

実は、自助、共助、公助この私たちのコミュニティの中にあるんですね、誰もがそこで生活している人は、基本的には負わなきゃならない話です。それは何か、自分で出来ることは自分でやりましょうと。自助、自分を助ける、自分で出来ることは自分でやりましょうと。共助、自分一人では出来ないけれども、今日ここに集まってくださっているような皆さん方、一緒になって仲間と一緒に考えれば何とかなるよ、ともに助け合うというのが共助ですね。その次に、自分一人で出来ることは一生懸命やったけれども、できないこともあるから仲間と一緒にやりました。仲間隣近所でやってもできないことがあるから、公助がでるんです。これは何かというと行政ですね、国や地方自治体がやってくれる。この3つのバランスが取れてないと、なかなかこれからの、地域活力は出てこない。大体がここに頼るんです。全部公助。

日本の財政も色んな事やりますが、すごく重要だった、この自助、共助、公助という考え方をまず皆さん方に持っていていただくことが非常に重要なことだと、そのためには非常にいいテーマだと思ったのがこの、一人一人の幸せを大切にする町、皆の福島、幸せアイランド福島、ということだったものですから、ここに書いておいたと。

この目立つものですね、今大体申し上げたことなんです、まず福島町という地域コミュニティ、これを皆さん方が、もう一度自分達が住む、定住する舞台なんだということを思い出して欲しい。

福島町というコミュニティは行政が主人公ではないですね、当然のことながら、皆さんお一人お一人、住民の人が主役であるのが当然です。

住民の人が幸せだと感じて、一番美しく見えなきゃいけない、行政がいくら光っても駄目なんですね。住民が光ることが大事。そのための舞台がこの福島町と言うコミュニティ、そうすると、ここに住んでおられる方々や来る人たちが自分で工面できる環境でなきゃいけない。定住していくにはそうですね。若い時はもちろん年を取っても住めるようになっていなければいけない。もっと言うと、子供たちも楽しく住めるようになっていないといけない。そのために、是非お願いしたいのは、皆さん方が主役ですから一番自分たちにとって演じやすい答えを作るんだと、ということなんです。ただし、基盤整理の部分はハードです

ので、公助の部分でやっていただかないと、これは自助では出来ません。それ以外のことは共助自助で出来るんですね、そういう形で皆さん方が常に自分が主役なんだと、行政という所は舞台で言えば大道具小道具を揃えてくれる所だと、それを調達してくるのは団体だったり、会社なんだと。それを利用するのは、我々住民なんだ。住民が輝きやすい、演じやすい舞台を一緒に作って行きましょう、ということですね。

これは私たちがよく言われる住民力、住民の力がこれから非常に重要な事であるという事で申し上げます。

あとは、スケジュールはまた後からご説明があるとは思いますが、3回～4回、今日は皆さん方にこの後自由に意見を述べていただいて、質問等があれば聞かせていただいて、次回からは皆で。今日、座っていただいているのは、グループごとにランダムに自由討論をしていただこうと。まちづくりの会議に出られたかた、経験がある方はいいのですが、無いという方も比較的大丈夫です。

自分の思っていることを、まとめていただいて、そのまとめる方向を私がお手伝いする、そんな形で、3回くらいで提案書に近いものを、それで、4回目は意見できるような格好でまとめていきたいというふうに。その時に利用するようなのは実は、何法かというとは実は難しいんです。KJ法と言うのを使います。これは思ったことをメモしといて、それを後で整理する。

福島町の高校でもやっていた、手法です。

それから、4ページ目は先ほどご説明がありましたので、飛ばさせていただきます。

5ページ目の所はもう一回、皆様方に申し訳ないですけども、町の現状をちょっと知って欲しいなというのがあります。

このまちづくりの町の大きなテーマは豊かな自然、たくましい産業、快適で心和む町福島。ということになっています。この中で、福島町の総合計画の中で、3つポイントをあげられています。それは、雇用を支える産業の活性化と、掘り起こし。これを何かと、皆様方から提案をいただけないかと。それから、健康で快適に暮らせる環境農村。これも何かご意見があれば。それから、情報共有、町を支え、育てる。皆さん方にもっと分かりやすく言えば、町づくりに参加していただく、という場をお借りできれば。こういうことをまず一つやって行きたいということがあります。

それから、このページの下のほう、これも先ほどご説明ありましたが、下の三行。繰り返しになりますが、福島町においては若者の人口減が顕著で高齢化や地域を支える産業の担い手不足が地域活性化の衰退の原因になっている。地域力は地域コミュニティの低下、少子化、これは地域経済に大きな影響と、ですからこれは悪循環に入ってしまう恐れがあるんですね。デフレスパイラルということで、どん

どん悪い方へ行ってしまふ。そういうことを、どっかで止めなければいけない、それは、何をするかというと、今、日本全国が地域資源を見直そう、ということで、この地域資源で一番重要なのは、実は人材ですよ。住民力、地域の人達の力です。地域の人達の皆さんの力でぜひ、何とかこの町を活性化させていきたい。こういう意気込みを持っているところでございます。

6ページの所も、先ほど町の方からご紹介いただきましたので、飛ばさせていただきます。

8ページの所は高校生会議の概要というところに入って行きます。高校生の人達に協力していただいてたまたま出てきたキャッチフレーズと、自分達の町の誇れるところと、住みたい町住んでみたいと思われるために必要だと思うこと。こういうのが提案されました。

個人のキャッチフレーズはどういうことになったかということ「誰だって来なくなる福島町」という事で、議論して出たグループがある。

それから「雇用を作る未来ある町」こういう事で考えてくれたと。「23世紀福島」なんで23世紀なのまだ21世紀だよと聞いたら、23世紀になったら、この福島町がばら色に輝いているんですと。ですからちょっと先の長い夢を持った高校生からの提案。

それから「この町を良くするために、まずは町の政治をしっかりと」というテーマをひとつ。それから「海人、山人、川人」という

こうなっていますが海、山、川、こういうものを愛する福島の人、というのがひとつ。

それから、この町の誇れるところというので提案が多かったのは、自然が豊かでこんなに空気が美味しい町はないんじゃないの、海にいつでも行けるし、魚が美味しい、特に、皆が優しいし、人の気持ちが温かい。こういうことを忘れないで行きたいと、いう提案がありました。それから、住みたい町、住んでみたいと思われるために必要だと思うことでは、一つは交通機関を充実させてほしい、交通手段がないんですよという高校生の方がいらっしゃった。それから一つ、荷物の届きが遅いと、それは何と聞いたら宅配がうちは遅いんだと、時間通り来ないとぼやいている子がいましたが、これも解決手段はありますよね。それから、商店街の活性化、ファーストフード、飲食店、特に多かったのは高校生ですから、書店が欲しい、後は、どういうわけか薬局が欲しいと言う人が出てきたんですね。それから、ショッピングセンターだとか、街並みの整備、カラオケ等娯楽施設を増やして欲しい。若者向けのイベントを増やし、華やかに町を、ってこれだけたくさんイベントがあるのに、まだやるのと聞いたら、若者向けのイベントがない。そんなことないじゃない、僕は広報を読んでいたら、若者向けのイベントっていっぱいあるよと言ったら、いやないです。とか、じゃあ今、君たち考えたら、という事で、宿題にしてあるんですが、

まあそういうことがありました。

それから、観光施設のネットワーク化と言うのがあります。これは何かというと、例えば生活の場という観光施設というのが、観光のまちづくりをしようとしたら、拠点になる所と、その周辺のもので繋がっていないというわけなんですね。いくらその中にいいものがあったとしても、なかなか、外から人は来ないということ、こんな提案がありました。それから、職場を増やして欲しいと言うようなこともありました。こういう、視点から行くと、9ページの所に少しだけ、書かれています、それは何かと言うと、定住促進少子化対策に向けた取り組み例として書いてあります。要するに福島町を作ると言っても、人づくり、人を生かす空気作りが重要ですよと、いうことです。

そのためには、大変皆様方には申し訳ないのですが、皆様方お一人お一人の力をお借りして、64人のパワーで何とかこの4回くらいの間に、一つの方向性を見つけ出して行きたいと思う事によって、たぶんこの町のこれからの行くべき方向、キーワードが見つかると、こういう風に思っております。その下は後でまた、時間があつたら、読んで頂ければいいかな、というような事でございます。

以上、非常に一方的な開催概要で申し訳ないのですが、いずれにしても、この町に人が住み、子どもを育て、幸せに生活していく為の何か手法、皆様方が今考えておられる事を、この4回

を使って、まとめて行きたいと言うのが趣旨でございます。4回くらいで何とかまとめたいと言うのが私どものご提案でございます。今の所について、何か、よく分からないとか何かご提案があれば。なにか、ありますか？

もし、またなにか質問があれば後ほどということ。

皆様方にご依頼をしたときに、町の方をお願いをして、質問表というのをお配りしているのですが、皆様方が書いていただいたようですから、その事について少し。

なぜ、今日その紙に書いてもらったかというのは、一回何かを書いていただくことによって、皆さん方がこの場で訴えたい事というのを、全員で共有できるのではないかと、そのためにはいきなり何か考えていただくのではなくて、事前に書いてきていただければいいかなと。

早速じゃあ、今日重要な問題点、課題について、色々皆さん方から、特に今日は自分の紙に書くこと、ご意見等も頂きたいと思うのですが。

ちょっと突然で申し訳ないのですが10分くらいゲームを始めたいと思います。

それでは、これからお願い事があります。実はこの用紙には数字が1番から100番までランダムに打っておりますので、私が言ったら1から順に丸をつけていってください。

それでは、始めて下さい。

～はい、止めて下さい。

番号を1番から10番までで終わった人。 0人
では、11番から20番の間という人 6人
21番から30番という人。 35人
31番から40番の人 4人

31～40まで打った人この4人の方は手を挙げてください。その方々はこのゲームをやったことがありますか？

(初めてとの回答あり。)

早いですね。だいたい30以内で終わっちゃうんですね、どこに行っても。

皆さん方、今やった紙を半分に折って下さい。それをさらに半分に折ってください。そして、広げて下さい。広げて見て、1番の番号は今何処にありますか？皆さん方から見て、左の上ですよね、2番はその隣右の上、3番は下。4番は左の下。5番は左の上。これ、時計回りになっているんですよ。

皆さん紙を裏返してください、また私が用意始めと言ったら始めて下さい。用意、始め。

～はい、止めて下さい。

そうしたらまた、数えさせていただきます。先ほどは10番以内は誰も居ませんでした。今度、聞いたから間違ってしまったという人。 . . . 当然いらっしゃいませんね。

11～20の間だという人。

. . . . 今度はお一人かな。
21～30の人。 お一人。
31～40の人。
41～50の人。 14人ですか。

これは何が言いたいかと申しますと、先ほど1番多かったのが21～30までの人が35人いらっしゃった。今回右回りですよと、答えの出し方を申し上げた。そうしたら、皆さん全員さっきより悪かった人、いらっしゃいませんよね、更に、最初私は皆さん方にやってくれと言った時にどれくらいの時間があつたと思いますか？

実は最初は2分くらいやりました。では、こっち。50以上が10数人出てきていますが、こっちは何分でしょうか。最初は2分やりました、こっちは1分40秒です。答えが分かったんだから当たり前じゃないと。じゃないんですよ実は。

これは何が言いたいかというと、私が1ページ目のところで申し上げた、共創型社会の創造ということで、福島町の方々がある物事について、誰かが持った知恵を皆が共有していただく、その事によって、期間が短縮されても効果は上がるということなんです。だからここの、共に学び、共に理解し、共に行動し、共に感動するという。これが、これからこの日本で一番求められている新しい公共。

共創型社会の創造、共に何かを作って行こうよ、と言った時に、重要なこ

となんです。それは、もっと言うと職場、役場に勤めている方でもポジションによって、考えていることは日々違います。町民の方々も自分達の仕事をやっていることによって違います。そういう人たちが、たまたま今日は45人ですが、45人の人が俺はこれを知っているよということ、仲間に伝えていただくと、一つのことが45人に伝わって行きますから、これですよ、ハブとスポークですよ。

そういう形でこれからの福島町の定住促進だとか、少子化対策をやっていけば、自分の知っていること、わかっていることを隣の人に伝えてあげる。自分の知らなかった人は隣の人から何か聞いて覚えて、じゃあ一緒に共通のテーマにしてやろうと。このパワーが出た時に本当に、このまちづくりの共同、行政と住民の共同、共に働いていい町をつくるぞというこういう簡単なゲームで体験していただきたいということがあったので、やりました。

ここで10分の休憩を取らせて頂きたいと思います。

(10分休憩)

申し訳ないのですが、今中塚さんが袋でくじ引きをやります。そのくじ引きを一つずつ引いてください。

それでは、グループ分けをさせていただきます。今8班までできました。恐縮なのですが、次回からこのグルー

プで作業していただきますので。

各グループで時計まわりで、自分の名前と今自分が関心を持っていることを仲間に伝えて下さい。

(各グループ自己紹介、意見交換)

終わりましたか？それでは、申し訳ないのですが、今度は、今までは皆さん同じ土俵で自分の自己紹介までしていただきました。これからは、グループの土俵を作らないといけませんので、それぞれのグループで、まずリーダー役を一人決めてください。それから、もう一人は私が時々何かを話しかけますから、話かけた時にグループの皆に伝える記録係、全員が私のことを気にしていると、作業が進まなくなりますので。まずグループリーダーを決めていただくことが一つ、それから普通は進行役といいますけど、私が何時くらいまでに、ああいうことこういうことをやって下さいと言いますから、それを聞き逃さないようにしていただく役割の一人。グループの中でリーダーと記録係・進行役を一人、グループの中で相談して決めてください。

45人の方が自分のグループと、自分のグループのリーダーと進行係・伝達役の方が決まったという事で、その方が誰かというのを自分の持っているペーパーの所に、書いてください。リーダーには二重丸、進行係にはまるでも分かるようにつけておいてくだ

さい。そこまでいきましたら、今度はリーダーの方から、時計まわりで、私の意見の所に自分の意見が書いてありますよね、それを仲間に伝達してください。

(各グループ意見交換)

はい、ありがとうございました。これで、今日お集まりいただいた、45人の方をグループに分けていただいて、お名前と、この人はどんなことを書いて来たんだろうとかどんなことを思っているんだということが、とりあえず共有できたかと思います。

今日はこれでとりあえず、終わりにして、次回にお願い事というのは、次回は、今日少し議論が始まった所があるようですけど、グループごとに本格的に議論をしていただくのですが、そのための材料は私の方でも用意しますので、とりあえず次回お集まりになる時に、この私の意見と、チームの名前が書いてある紙を必ず持ってきてください。

次回はこれを元にして、必ず議論していただきますので、必ずもって来てください。

最終的には45人の意見がいくつかに集約されて、それは皆が共有できる。ぜひそういうのを町のほうでもぜひ進めて欲しいというのを最終的にはまとめて行きたいと思います。

長時間に渡りましたが、今日第一回目の概要の説明と、とりあえずの皆さん方の、それぞれが何を考えて来たっ

ていうこと、それを確認したということで、一度、私の方はこれで終わりにしたいと思います。この後、今後のスケジュールを若干ご説明させていただきます。

長時間ありがとうございました。

○事務局

その他ということで、時間も遅くなりましたので、すぐ終わりたいと思います。次回の会議予定なんですけれども、資料にもあったとおり10月下旬を予定しております。それで、次回の会議までの間にこれとは別に、皆さん方の方にアンケートという事で、課題を拾い集めるような格好で、皆様とりあえず全部来ていけば69名になるはずなんですけれども、その方と、あと、町民の方、20代40代の方に230通、合わせて町で300人に不作為でアンケートを行います。あと、それ以外にも高校生とかにもやりますので、アンケートが届き次第協力をお願いします。一応、先生の方からもお話あったと思うんですけども、まだ形にはなっていないんですけど、皆さんが思っている意見を出してもらい、最終的には提言書という事であげてもらって、自分達の思った通り、こういうものが制度で欲しいという形になればと思いますので、そのために協力の方をお願いしたいと思います。以上で終了したいと思います。

お疲れさまでした。